

令和6年度全国学力学習状況調査・大阪府すくすくウォッチの結果考察

河内長野市立美加の台小学校

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況の把握・分析を行い、教育施策の成果と課題の検証及びその改善を図ること、また学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にしています。

またすくすくウォッチは、子どもたちに各教科の学力に加え、ことばの力や文章、情報を読み取り考える力、様々な情報を活用する力、そして「見えない学力」と言われるねばり強さや好奇心などを育む、大阪府としての取組みです。

これらをふまえて、本校では、次に挙げるような成果が期待されると考えております。

- 子どもたちは、それぞれの学習の到達状況を知ることで、学習意欲が高まり、自ら目標を持って今後の学習の改善や励みになる。
- 学校は、自校の状況をより詳細に分析することで、子どもたちの確かな学力及び教員の指導力・授業力の向上につながる。

《調査結果の取り扱い》

◇本調査により測定できるのは、学力の限られた一部分であり、学校における教育活動の一つの側面です。すべての学力を捉えられているものではないことに十分留意して取り扱うことが必要です。

◇学校は、「子どもにどのような力がついてきたのか」「学校がどのような教育を進めているのか」「子どもの学習状況や生活習慣等にどのような良い点・課題があるのか」など、一人ひとりの学力向上の取り組みの改善とともに、学校における課題を整理して、課題改善する取り組みを進めていきます。

《お願い》

□学習への意欲は、子どもの自尊感情と大きな関係があります。友だちやきょうだいと比較することは、意欲を低下させる場合があります。今回の結果からお子様の伸びや課題を知り、まずはお子様の良いところを褒めてください。その上で、課題について頑張って克服できるよう励ましてあげてください。そのことがお子様の学習意欲を高めることにつながります。

□学力の向上は学校が主にその役割を担いますが、各家庭におかれましても、今回の結果を子どもたちの基本的な生活習慣の見直しや今後の家庭学習の進め方等の参考にしていただきますようよろしくお願いいたします。

□調査結果のうち、正答率については、調査に参加した子ども並びに保護者の方にのみ提供しているものです。学校間の序列化や過度な競争につながらないよう、その取り扱いについては、十分にご留意いただきますようお願いいたします。

国語

5年すくすくウォッチ(国語)の特色

言葉の特徴や使い方に関する問題が多く(助詞、述語、ローマ字、故事成語、対義語、指示語、接続語、修飾語等)、「話すこと聞くこと」、「読むこと」の領域からの出題がなかった。問題形式は選択式か短答式で、記述式は出題されなかった。

【成果】

指示語が指し示す言葉を選ぶ問題、文末表現をそろえる問題、被修飾語を見つける問題においては全員正解だった。また、文末表現を適したものに書き直す問題、2文を意味が変わらないように1文に書き直す問題において、高い正答率であった。普段の読書活動や授業で文章を書く学習などが活かされていると考えられる。

【課題】

同音異義語(関心・感心)を書く問題について、正答率が非常に低く(17%)、文の意味に沿って使い分けることに課題が見られた。言葉を単発で区切って学習するのではなく、言葉の持つ意味、他の言葉との関連性なども意識して学習させていきたい。

6年全国学力学習状況調査(国語)の特色

話し合いやオンライン交流等、相手にわかりやすく伝える場面を想定した問題が多くあった。条件に合わせて記述する問題は2問あった。全体の平均正答率は全国とほぼ変わらない結果となった。

【成果】

オンラインで交流する場面での話し方の工夫として適切なものを選ぶ問題において高い正答率であった。日常の言語活動の積み重ねで、相手の反応に対しての行動がどのような意味を持つかなど、理解できていると考えられる。

【課題】

1文の中で、述語に対する主語として適切なものを選ぶ問題(※1)において、正答率が半分程度となり、述語のすぐ上の言葉を選んだ児童が25%いた。日常の授業の中で主語がどれか、主語と述語の関係がどうなっているかなどを意識して文章を読ませたり書かせたりしていきたい。また、物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く問題において課題が見られた。解答類型によると、与えられた条件(理由)を満たしていない児童が多く、書いた後に自分の文章が条件を満たしているか読み返す場面を、日常の学習活動の中でも設定することが大切であると考えられる。

《※1の問題》

○原さんは、【物語】の 、かがやいているものは何だろうと考えています。
次の 部「かがやいています。」の主語として適切なものを、あとの1から 4 までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

はらっぱじゅうの 1 もやが、ひかりの雲にかわり、2 そして、そのまんなかで、オニグモじいさんの 3 巣は、かぞえきれないほどたくさんの小さなお日さままでできているように、きらきら、きらきりと、4 まぶしく か
がやいています。

- 1 もやが
- 2 そして
- 3 巣は
- 4 まぶしく

算数

5年すくすくウォッチ(算数)の特色

図・資料から情報を読み取り、そのうえで出題者の主張と合っているかを判断する問題が多かった。
2つの数量の関係を説明する設問では、書き始めと書き終わりが解答欄に書いてあり、答えの書き方の例を見ながら完成させる問題だった。

【成果】

すべての問題で大阪府の正答率を上回っており、無回答率も記述問題で数%であった。評価観点
が「知識・技能」の問題の正答率が高く、立式や計算の定着が感じられる。

資料を読み取り、2つの数量の移り変わりを説明する記述問題では、正答率・準正答率を合わせて
90%を超えており、図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて正しくとらえられていると
言える。また、最後の問題が記述問題であったが無回答率が2%と低く、最後まで何とか取り組もうと
する姿勢が見られた。

【課題】

図形の性質を応用して解く問題や、図形(円と長方形)の性質の違いをもとにして説明する問題の正答
率が低かった。長い文の問題を読み取り、円と長方形の図形の性質を正確に理解しておく必要がある上
に、それを文に表し、自分の考えをまとめる作業が難しかったと考えられる。既習の知識や与えられた条件
を元にして、自分なりの意見や説明を書く機会を普段の授業の中で取り入れていたり、長い文章問題を
解く練習をしたりすることが必要である。

6年全国学力学習状況調査(算数)の特色

数と計算・図形・変化と関係・データの活用の領域から出題された。数や式、言葉を用いて説明する記述問題が出された。

【成果】

全ての領域において、大阪府の平均正答率と全国の平均正答率を上回っていた。計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答え方を式や言葉を用いて記述できるかを問う問題で正答率が高く、無回答の児童もいなかった。算数少人数の学習において、分かったことを自分のことばでまとめる活動を積み重ねてきたことの成果であると考えられる。

円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ問題で正答率が高く、図形の基本的な性質を確実に理解し、定着していると考えられる。

【課題】

図形や単位量当たりの大きさ(速さなど)について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られた。玉の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を表すことができるかどうかをみる問題(※1)では、図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考える際、必要な数値を円の直径ではなく円周率で用いる児童が一定数おり、体積や円という既習事項がきちんと整理して理解できていないことが分かった。

速さの意味について理解しているかどうかをみる問題(※2)では、速さなどの単位量当たりの大きさの意味や表し方についての理解に課題がある児童がいた。

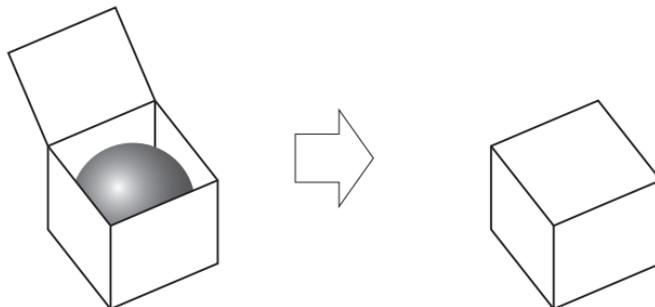
日常生活を絡めながら活用できる知識・技能を習得させられるように授業や課題で取り組みたい。データの活用においては、データを言葉や数を使って表現する力を身に付けさせる必要がある。

《※1の問題》

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



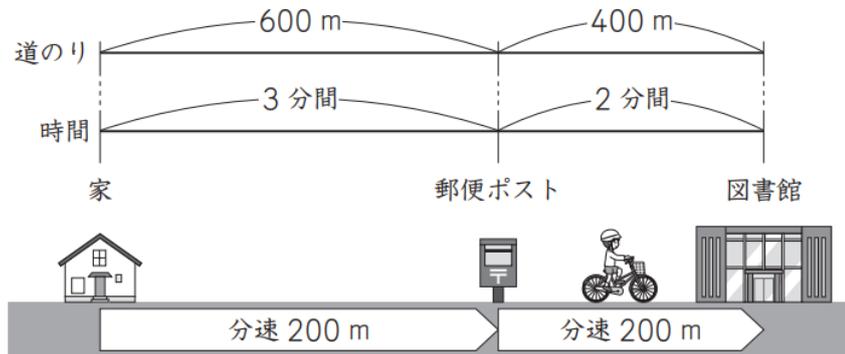
このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

《※2の問題》

- (4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600 mで、3分間かかり、速さは分速200 mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400 mで、2分間かかり、速さは分速200 mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何 m ですか。

答えを書きましょう。

理科

5年すくすくウォッチ(理科)の特色

「エネルギー」を柱とする領域から問題が多く出されていた。ほとんどが選択式の解答だが、記述式も二つあった。どちらも無解答率が低く(1問は0%)、児童が前向きに取り組んだことが分かる。

【成果】

全体的に府平均よりも正答率が上回っている。特に思考・判断・表現を問う問題において良い結果であった。

昨年度正答率が低かった方位磁針の問題の正答率が高くなっており、引き続き定着をはかりたい。

【課題】

「エネルギー」と「地球」を柱とする領域の正答率が低く、知識技能を問われる選択式の問題においても正答率が低いものがあった。設問が長文になっていることで、出題の意図や内容をつかみにくかったようである。

6年すくすくウォッチ(理科)の特色

5年生と同様に、「エネルギー」を柱とする領域から問題が多く出された。出題の形式も同様であったが、記述式の無解答率が低く、児童が前向きに取り組んだことが分かる。

【成果】

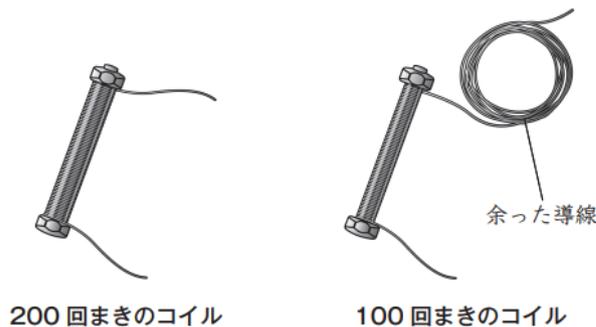
5年生と同じように、**思考・判断・表現**を問う問題において、高い正答率であった。専科指導による学習で、実験結果を考察し、分かったことを自分の表現で文章にまとめたり、発表し合ったりする活動を積み重ねてきたことが、成果となって表れている。

【課題】

電磁石の磁力を強くする方法について記述して答える問題(※1)については、正答率が36%と低く、学習した内容を応用して考えるのが難しかったようである。また、4年生で学習する内容の、なべから出た湯気が見えなくなった理由を記述する問題(※2)については5・6年生の共通問題であったが、その正答率から、学習してからの時間が経過するほど定着が薄れていってしまう傾向が見られた。既習事項も継続的に復習し、一層の定着を図ることの必要性が感じられる。

《※1の問題》

- 電磁石の強さを調べるために、同じ長さの導線を2本用意し、下の図のように、200回まきと100回まきのコイルを作りました。

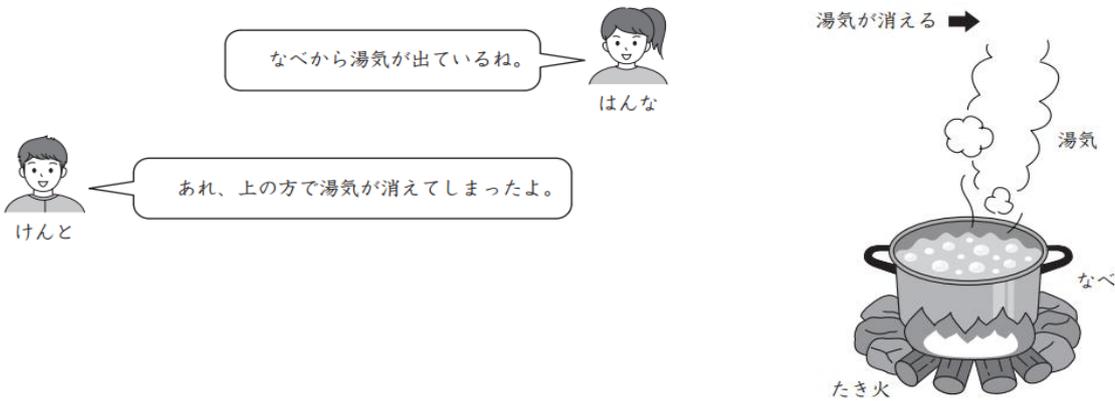


回路のコイルをとりかえて実験すると、まき数の多い200回まきのコイルの方がクリップをたくさんくっつけることができたね。他に電磁石を強くする方法はあったかな。

問い 電磁石を強くするためには、コイルのまき数を増やす以外に、どのようにすればよいですか。その方法を文章で書きましょう。方法はいくつ書いても構いません。

《※2の問題》

○ はんなさんたちは、なべにインスタントラーメンを入れようとしたときに、あることに気づきました。



問い なべから出た湯気が、なぜ消えて見えなくなったのでしょうか。理由を 書きましょう。

教科横断的問題

5・6年すくすくウォッチ(わくわく問題)の特色

教科横断的な内容で、既習の学習内容を活用しながら問題解決していくものである。①自転車、②ダンス、③すし—SDGS について資料を読み取り、考える問題であった。

【成果】

すべての問題で大阪府平均正答率を上回った。図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて正しく捉え、資料の情報を整理して伝えることができていた。

記述問題の無回答率が低く、興味・関心のある事柄について意欲的に工夫して伝えることができていた。

【課題】

種々の資料や文章から読み取り、その思考力を問う問題(※1)に課題が見られた。たくさんの文章から必要な情報を選び抜く力をつけていく必要がある。

《※1の問題》

自転車のペダルの横には大きなギヤ（歯車）が、後輪の中心には小さなギヤが付いています。ギヤの外側にはとがった歯があり、ここにチェーンがかけられています。ペダルをこぐと大きなギヤが回転してチェーンが動き、後輪の小さなギヤを回転させます。チェーンとギヤを使うと、ペダルをこいだ回数以上に後輪が回転します。

後輪のギヤの歯数を変えることができる「変速機付き自転車」を使って、チェーンとギヤの仕組みをくわしく見ていきましょう。



A

後輪のギヤの歯数	ペダルのギヤの歯数
8	32

例えば、**A**のようにペダルのギヤの歯数を32、後輪のギヤの歯数を8とします。ペダルのギヤが1回転すると、後輪のギヤは $32 \div 8 = 4$ で後輪4回転分の距離を進むことができます。

B

後輪のギヤの歯数	ペダルのギヤの歯数
16	32

では、後輪のギヤの歯数を変えてみるとどうなるでしょうか。**B**のようにペダルのギヤの歯数は32のまま、後輪のギヤの歯数を16に変えてみます。ペダルのギヤが1回転すると、後輪のギヤは $32 \div 16 = 2$ で後輪2回転分の距離を進むことができます。



わたしは、**A**の方が**B**と比べて、ペダルを1回こぐことで進む距離が長いから、**A**の組み合わせがいいな。

わたしは、「変速機付き自転車」に乗っているけれど、ペダルを1回こぐことで進む距離が長くなる組み合わせほど、ペダルが重く感じるよ。だから、わたしが自転車で家の前の坂を上るときは、いつもペダルが一番軽く感じる組み合わせにしているよ。



問い 【チェーンとギヤの仕組み】の資料とラウラさんの発言から考えると、ラウラさんが自転車で家の前の坂を上るときは、ギヤの組み合わせはどれでしょうか。下の**A**から**E**までの中から1つ選びましょう。

	後輪のギヤの歯数	ペダルのギヤの歯数
A	6	48
I	24	48
U	16	48
E	12	48

アンケート

【良かったところ】

「自分にはいいところがある」「自分で学び方を考え、工夫することができている」「学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動をしている」「友だちとの話し合い活動を通して自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」に対して肯定的に回答した児童の割合が高く、自己肯定感が高い児童が多く、友だちとの交流や既習事項をもとに新しい問題を解こうとする、学習に対しての前向きな姿勢が見られた。

【気になるところ】

「平日に、どれくらいの時間テレビゲーム(パソコン・スマートフォン等のゲームを含む)をしますか」という質問に対し、2時間以上と回答した児童が32%、同じく「平日に、どれくらいの時間携帯やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」という質問に対し、2時間以上と回答した児童が26%という結果になった。中には各々4時間以上と回答した児童も一定数おり、視力や姿勢への影響だけでなく、様々な情報との関わり方等が懸念される結果となった。

結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと

- ①あらゆる学習場面において主体的に取り組むとともに、自分の考えを持ちつつ、友だちと対話を重ねながら学習を進めていくよう指導していきます。
- ②既習の内容を繰り返し取り組み、学びを定着させ持続的な学力となるように指導します。
- ③話し合い活動の充実を図り、互いの意見を尊重しながら協議を進めていく力を育てていきます。
- ④子どもたちが自分のアイデア・ひらめきを安心して表現できる雰囲気や学校に築き、発揮できる機会を設けていきます。

(2) 児童のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

- ①身の回りの様々なことに「？」を抱き、進んで調べたり、人に尋ねたり、試してみたりしましょう。
- ②読書ノートを活用しながら、たくさんの本に出合ってください。
- ③学習したことは、実際に使うことでしっかり身につきます。日頃文章を書くときには、習った漢字や語句を積極的に使うようにしましょう。

(3) 保護者のみなさまにご協力いただきたいこと

子どもたちにとってインターネット・SNSが身近なものになっています。便利である反面、不確かな情報も含まれており、精査できる判断力・情報リテラシーを身につけていく必要があります。また、友だちとやり取りする中で、対面していないために、意図しない伝わり方や誤解を生んでしまってトラブルになる可能性もあります。健やかに豊かに成長していくためにも、引き続いての見守り、ご示唆をよろしく願いいたします。